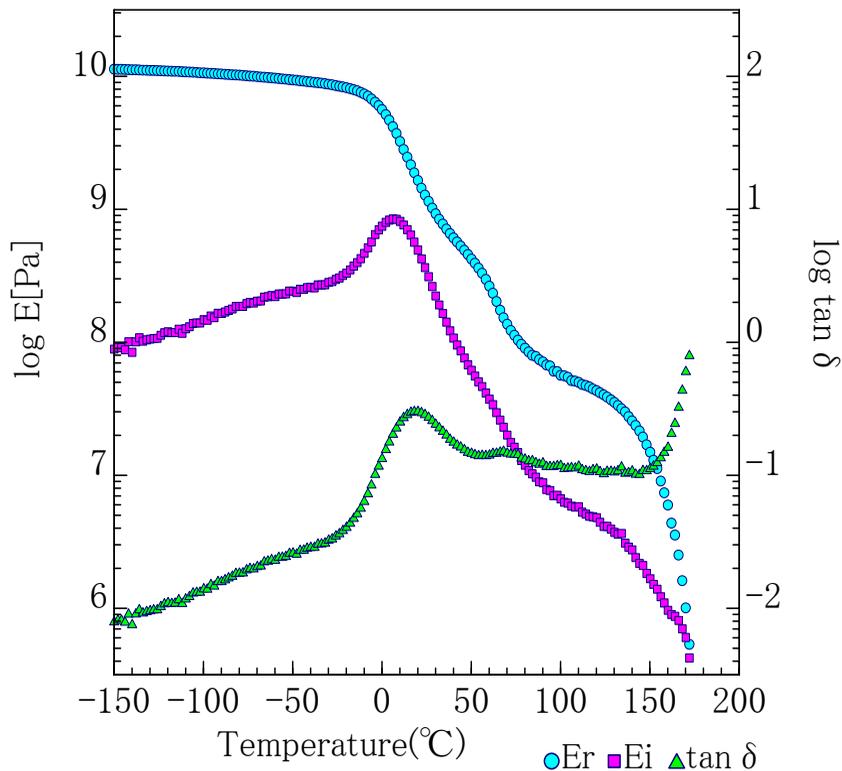


DVA-225 は 極薄フィルム(~ 1.5 μm) が測れます : 下図はラップフィルム

DVA (3°C/min; 10Hz) [PVDC系ラップ(10 μ 厚)]

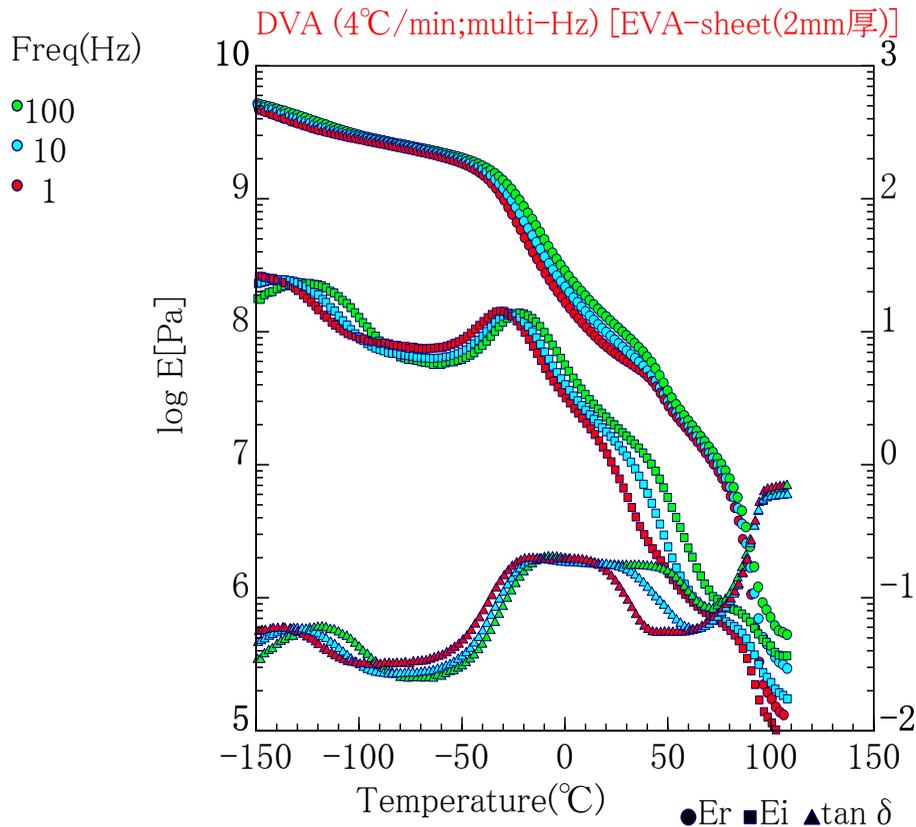


抜群の冷却性能

左例で説明 :

液体窒素、約 3L 使用
- 150 開始まで
10 分以下で到達
放冷後、次の測定は
170 終了なら 8 分
程度で、PET 融点 ;
260 終了で 15 分
以内で可能

DVA-225 は 厚いシートも測れます：下図は 2mm厚の試料、複数周波数で



周波数群の入力例

(一部)

Frequency Table

測定周波数 (Hz単位) の設定 No.順

設定可能範囲: 110~0.001Hz 推奨

現在値 3 変更値 (2~6)

No-1	100
No-2	10
No-3	1

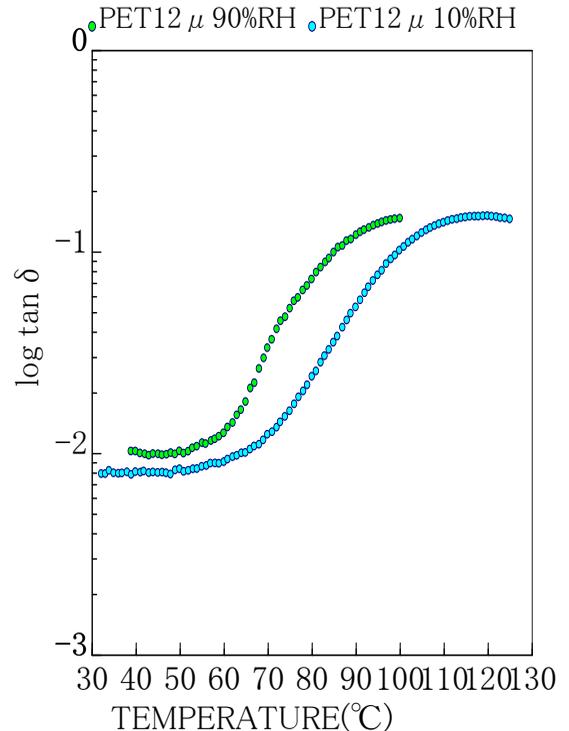
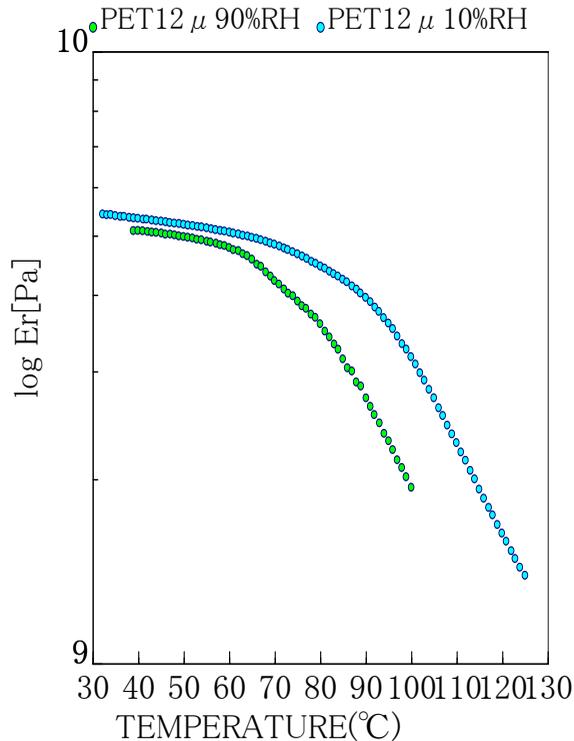
OK

湿度センサの取り付け状況(-40 ~ 180 、 0 ~ 100%RH)



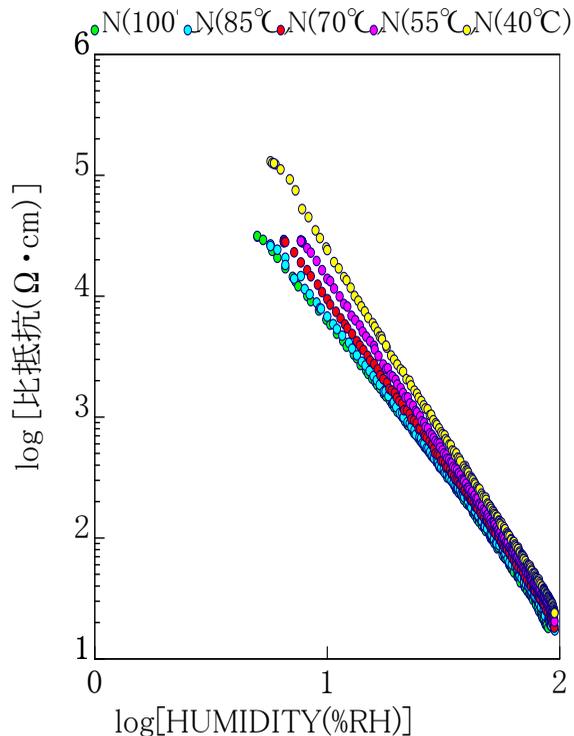
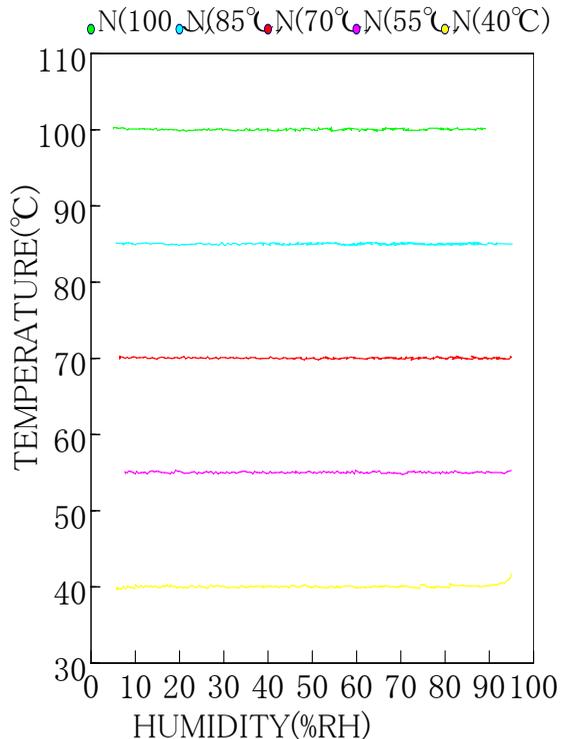
DVA-225 は 湿度制御ができます

下図は PET フィルムの、相対湿度 10 と 90%RH 設定での測定結果 の比較です



DVA-225 は 湿度制御下で電気抵抗が測定できます (オプション)

Nafion 膜について、左図の 5 ケの温度湿度条件で電気抵抗を測定しました。右図、比抵抗と相対湿度 の $\log_log_$ プロットはほぼ直線でした。 勾配は温度で若干かわります。



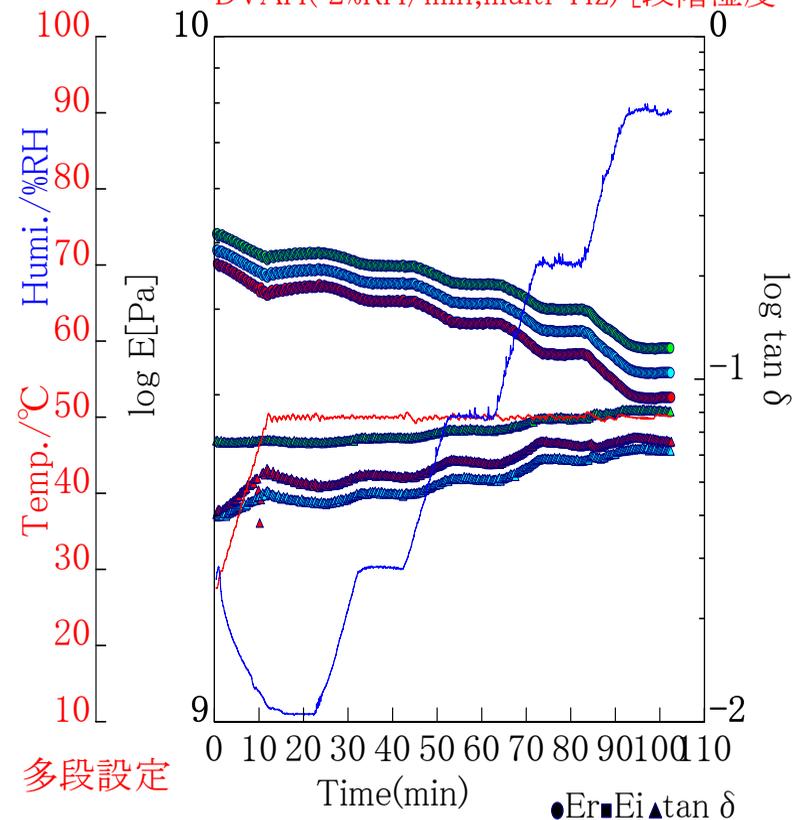
温度・湿度を段階的にかえた測定もできます(オプション)

複数周波数 100,10,1Hz で測定しています。

下表は周波数分散測定でも使用します。

DVAH(2%RH/min;multi-Hz) [段階湿度・複

温度・湿度条件の入力例です。



多段設定

多段階温湿度条件入力

記録開始 Stage-0 Stage-1

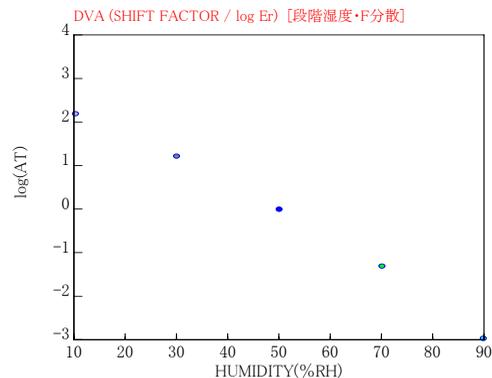
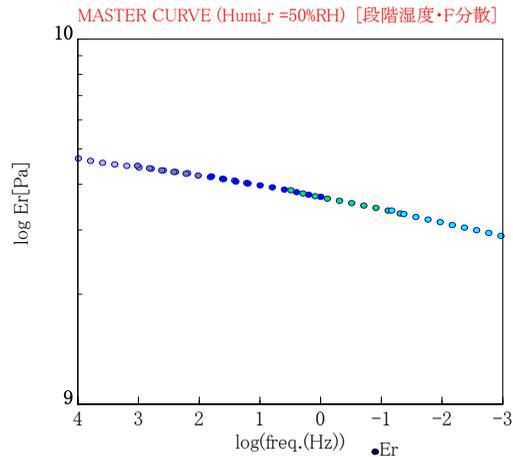
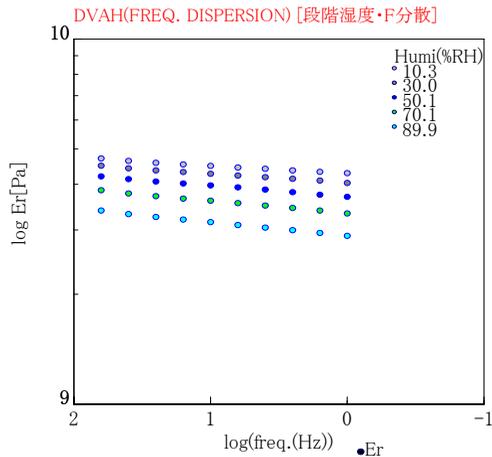
stage	(dT/dt) °C/min	Ti °C	(dRH/dt) %RH/min	RHi %RH	(holding time) min	next stage	repeat count
0	2	50	-10	10	10	1	
1	0	50	2	30	10	2	
2	0	50	2	50	10	3	
3	0	50	2	70	10	4	
4	0	50	2	90	10	9	
5	0	0	0	0	0	0	
6	0	0	0	0	0	0	
7	0	0	0	0	0	0	
8	0	0	0	0	0	0	
9	End !!						

Program will be completed at the stage in witch '9' is written as the next stage.

入力完了

湿度ステップで 周波数分散測定 が測定できます。下図は TAC の例です。

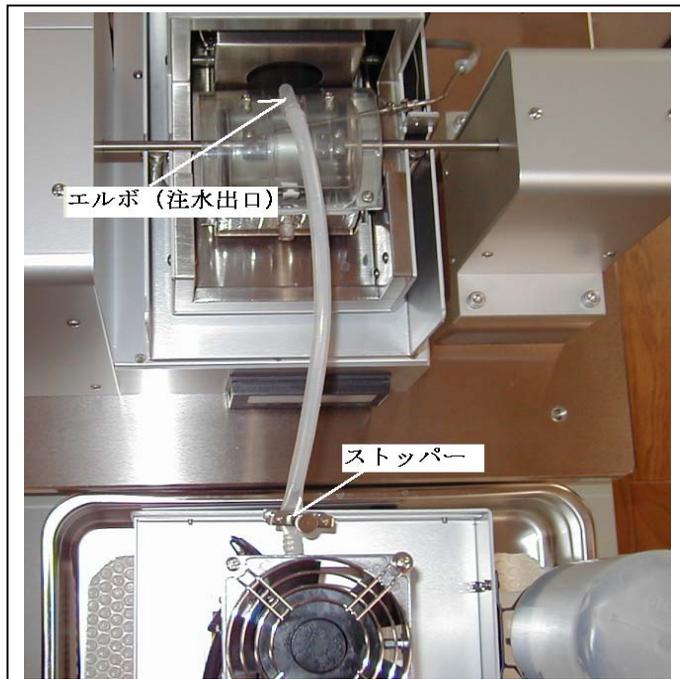
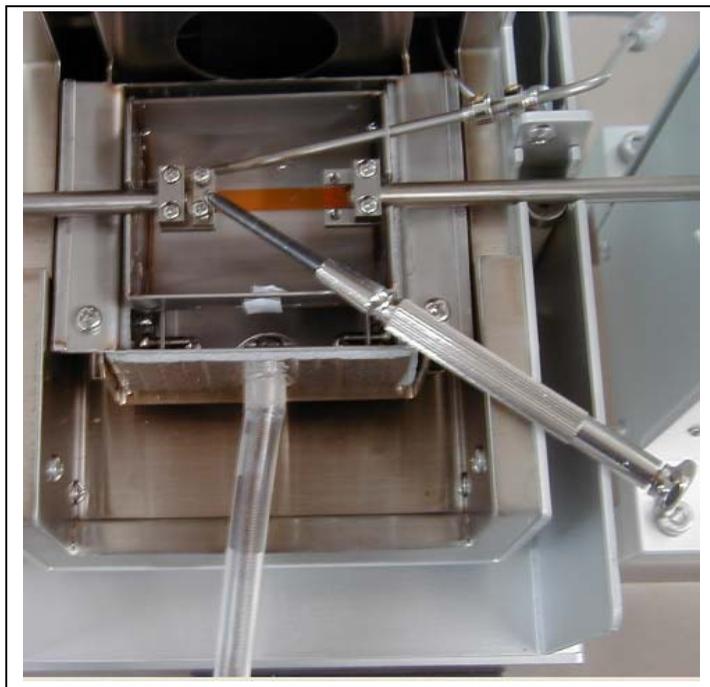
各湿度でシフトしマスターカーブを得ることもできます。対象の材料としては問題でした。



例は E_r から得たシフトファクターですが、これは E_i から得たシフトファクターとはかなり異なりました。したがって、シフトの例題材料の選択としては失敗でした。水中のデータ処理も同じようです。

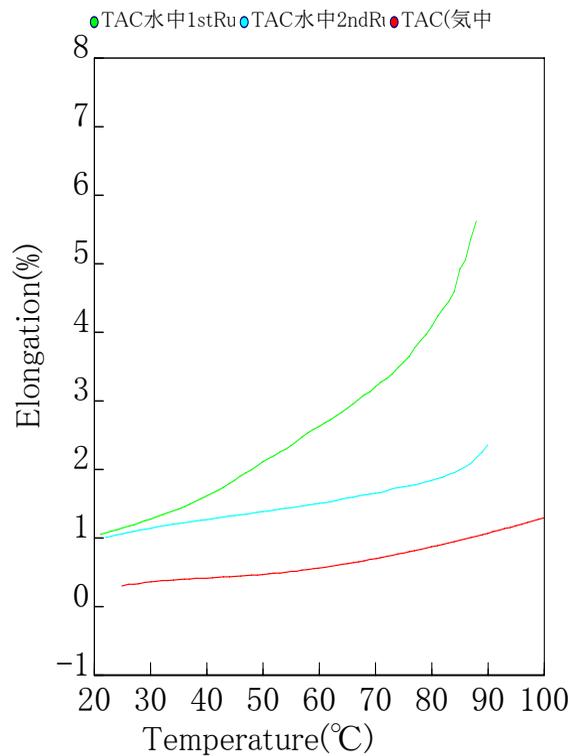
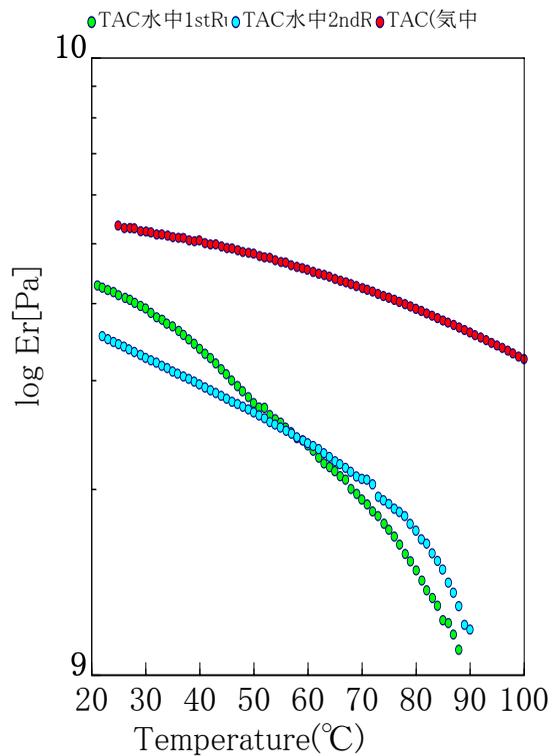
新しい水中測定システム（循環温調水槽）

- 1) よりコンパクトに；必要水量 600ml
- 2) 温調の迅速性・制御精度アップ
- 3) 試料槽に TPX 透明カバー
- 4) 測定範囲：10 - 90（室温以下は氷水使用）。 昇温速度：3 /min（ ~ 80 ）、2 /min（ $80 \sim 90$ ）



DVA-225 は水中測定が可能です

TAC(トリアセテートフィルム)100 μ 厚 の水中と気中での測定結果を比較しました。



水中で周波数分散測定 が測定できます。下図はTACの測定と処理結果です。

各水温でシフトしマスターカーブを得ることができます。ただし、対象の材料としては問題でした。

